

河川砂防技術研究開発公募 流域計画・流域管理課題分野
平成28年度採択テーマ 中間評価結果

(中間評価1年目)

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	産官学民協働の水害に強い街づくりのためのリスクコミュニケーション手法の構築	山梨大学 大学院 鈴木 猛康	b	対象地域においてリスクコミュニケーション手法の実証が進展している。 開発しているリスクコミュニケーション手法への基礎的なリスク情報や避難シミュレーションの反映方法の明示にも留意しながら、技術研究開発を継続することが妥当と評価する。
概要	本研究は、リニア新駅建設予定地で水害常襲地帯である甲府市大里地区を対象として、産官学民協働による水害に強い街づくりにBECAUSEモデルに基づいたリスクコミュニケーション手法を開発・適用し、その有効性を検証すると共に、産学官民の様々なステークホルダーが地域の街づくりのために協働できる場を創出し、各作業部会の活動の推進支援、リスクコミュニケーションに有効な技術や手法等のツールを開発するものである。			
テーマ	気候変化下における最大クラス洪水推定と水害リスク変容評価	金沢大学 谷口 健司	b	数値気象シミュレーションや流出解析が進展している。 応用都市経済モデルの検討を加速させることにも留意しながら、技術研究開発を継続することが妥当と評価する。
概要	本研究では、下流域に小松市街地を有し、平成25年に観測開始以来最高水位を記録した石川県内の一級河川である梯川流域を対象とし、温暖化予測結果及び数値気象モデルを用いて既往洪水をもたらした気象事例の将来変化シミュレーションを行い、それに基づく将来の最大クラス洪水と浸水氾濫域の変化を推定する。さらに、将来の浸水氾濫域を考慮した治水メニューの検討とその実施に伴うリスク変化や経済的影響等の評価を行う。			
テーマ	堤防脆弱性タイムラインと破堤氾濫予測に基づいた堤防強化対策及び氾濫危機管理技術に関する研究	中央大学 田端 幸輔	a	堤防の破壊危険確率と脆弱性指標の検討などが着実に進捗している。 まちづくり、河川巡視、水防活動などへの活用に向けた提案も留意しながら、技術研究開発を継続することが妥当と評価する。
概要	平成27年9月洪水時に堤防決壊を含む多くの堤体被災が生じた鬼怒川を対象に、堤防破壊危険確率と堤防脆弱性指標の時間変化(タイムライン)から堤防の破壊危険性を評価し、堤防強化対策実施による効果を定量的に見積もる手法を開発する。また、平成27年9月洪水時の氾濫流の再現により、流域氾濫特性を明らかにするとともに、大規模洪水に対する流域全体の治水、危機管理対策を検討していく上で必要な技術課題を明らかにする。			
テーマ	不確実性下における高潮浸水リスク適応政策の経済評価	熊本大学 藤見 俊夫	b	高潮浸水のシミュレーションや浸水リスク解消の経済価値の推定などが進展している。 シミュレーションの高度化と経済評価の関連性を明確にすること及び成果の具体的な活用方法を提示すことにも留意しながら、技術研究開発を継続することが妥当と評価する。
概要	本研究では、高潮リスク予測における不確実性を考慮した適応政策の経済評価手法の構築を目指す。さらに、そうした不確実性が適応政策の評価額に及ぼす影響を「不確実性プレミアム」として試算する。本年度は、現状気候条件下の浸水シミュレーションを行う。また、不確実性下における浸水被害リスク削減に対する住民の経済評価を行うため、仮想市場評価法のプレ・アンケート調査を行い、不確実性下のリスクの経済評価モデルを推定する。そこから本調査を実施するために役立つ知見を得る。			
テーマ	超過洪水にも適応できる次世代防災都市へのコンパクト化・スマートシュリンク化に関する研究	福岡大学 村上 哲	d	情報収集は実施されているものの、成果目標への到達が見込めるような進捗が見られない。 また、研究体制の変化に応じた実施計画が明示されていないなど新たな成果が見込めない。これらのことから、技術研究開発の継続は認められない。
概要	人口減少・高齢化による地方都市のコンパクト化は必然的に解決すべき命題である。加えて、水害リスクの高い都市では、気候変動や施設の能力を上回る洪水にも適応できる災害に強いまちづくりのために、高リスク居住区から低リスク居住区へ誘導するコンパクト化が肝要である。本研究では、気候変動や施設の能力を上回る超過洪水にも適応できる災害に強いまちづくりのためのコンパクト化・スマートシュリンク化すべき地域を特定し、次世代コンパクトアグリシティ計画を具体的に提示することを目的とする。			

評価の凡例

- a: 非常に優れた研究であった。
- b: 優れた研究であった。
- c: 条件付きで評価できる(研究費の減額等)。
- d: 優れた研究ではなかった(研究の打ち切り)。